

学生活動等



- ・ 岐阜大学の2チームがTongaliビジネスプランコンテスト2025で受賞
- ・ 飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！「東海クライマックスシリーズ2025」を開催
- ・ 岐阜大学フォーミュラレーシングチームが「学生フォーミュラ日本大会2025」で総合6位を獲得
- ・ 学生チーム「iGEM Gifu」がiGEM 2025 Grand Jamboreeで金賞を受賞
- ・ 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催
- ・ 岐阜大学医学部のサークル団体が「第77回西日本医科学学生総合体育大会」で総合優勝
- ・ 岐阜大学環境サークル「G-amet」を岐阜市が表彰
- ・ 「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で本学学生が日本MITベンチャーフォーラム賞を受賞
- ・ 社会システム経営学環の学生が企画した新商品「岐阜大仏珈琲」が発売

岐阜大学の2チームが Tongaliビジネスプランコンテスト2025で受賞

【概要】

6月21日（土）に開催された「Tongaliビジネスプランコンテスト2025 決勝～ファイナル～」(主催：Tongaliプロジェクト)において、岐阜大学から出場した以下の2チームが見事受賞を果たしました。

本コンテストは、全国の大学生・大学院生を対象に、学生発ベンチャーの創出と起業家育成を目的として毎年開催されており、今年も多数の応募の中から選ばれたチームが熱いプレゼンテーションを繰り広げました。

チーム外科

代表者：酒井 陽菜（応用生物科学部）

テーマ：「"命を救うための学び"を、命を犠牲にせず実現する
— 教育現場で創る次世代獣医外科教育モデル」

受賞内容：海外チャレンジ賞、OKB賞

GIVELOVE

代表者：北川 愛子（地域科学部）

テーマ：「大学生 × 介護施設の新しい支援のかたち」

受賞内容：右上がり賞、なごのキャンパス賞

両チームの受賞は、岐阜大学における実践的な教育と地域連携の成果を示すものであり、今後のさらなる活躍が期待されます。



チーム外科



GIVELOVE

飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！ 「東海クライマックスシリーズ2025」を開催

【概要】

岐阜大学 航空宇宙生産技術開発センターは、9月22日(月)に山県市山県総合体育館において、飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦「東海クライマックスシリーズ2025」を開催しました。

本大会は、岐阜大学 工学部所属の4年生、名古屋大学 工学部所属の3年生を対象とした、飛行ロボット(自律滑空機)を設計・製作する授業より選抜された機体が参加し、今年度は岐阜大学と連携授業を実施している中日本航空専門学校も参加し、どの機体が最も優れた飛行を見せるかを競いました。

これらの様子は東海国立大学機構の松尾清一機構長、吉田和弘岐阜大学学長、本大会顧問森脇久隆氏(前岐阜大学学長)をはじめとする関係者、および一般観覧者111名+近くの幼稚園から90名の年長さんが会場にて観覧されました。

今大会は、岐阜大学2チーム、名古屋大学2チーム、中日本航空専門学校1チームの合計5チーム23名の学生により競技が行われ、各チーム3回のフライトを行った中で発射台(離陸台)からの距離と、中心線からの角度、壁まで到達した場合、到達点の高さを独自の計算式に当てはめて計算し、その総合得点をチーム記録とするルールで行いました。また、昨年度に引き続き業務用送風機にて外乱を発生、今年度も難易度の高い競技となりました。

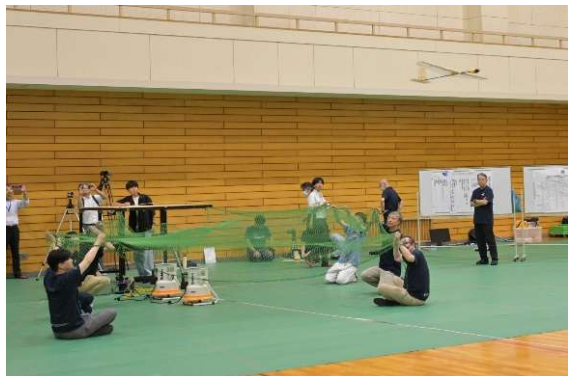
競技会は岐阜大学Bチームが総合得点50.0点で優勝し、57メートルを超える素晴らしい飛行を見せました。また、川崎重工業株式会社の有志チームによるエキシビジョンマッチも行われたほか、各学生チーム機体のデザイン投票を来場者全員にご参加いただき、最も投票の多かった中日本航空専門学校チームがデザイン賞を授与する等、過去最多の観客数もあり、盛り上がりを見せました。

競技後に大反省会として、それぞれの飛行ロボットのフライト動画を見ながら反省点を述べるとともに、他チームからの質問に答えるなど、普段交わることが少ないそれぞれの大学の学生間での交流が生まれ、貴重な体験となりました。

また、千葉大学 名誉教授/福島国際研究教育機構 (F-REI) ロボット分野長/日本ドローンコンソーシアム (JDC) 会長/先端ロボティクス財団理事長/株式会社AutonomyHD代表取締役CEO、野波健蔵先生から、「AIドローンによる新たな空の産業革命」と題して特別講演をいただき、学生にとってはまたとない貴重なお話を伺う機会となりました。

次回以降も盛大なイベントとなるように、これから企画を進めていく予定としています。

飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！
「東海クライマックスシリーズ2025」を開催



競技会の様子（1）



競技会の様子（2）



エキシビジョンを行うFRECKSチーム



特別講演を行う野波健蔵先生



大反省会でフライトの分析を行う学生の様子



集合写真



最優秀賞（岐阜大学Bチーム）



デザイン賞（中日本航空専門学校チーム）

【メディア掲載】

| 掲載日 | 新聞社名 | 内容 |
|-----------|------|---|
| 2025/9/23 | 読売 | 飛行ロボ大学生ら熱戦 東海の3校出場 岐阜大チームが優勝 ～航空宇宙生産技術開発センター～ |
| 2025/9/24 | 岐阜 | 飛行ロボ 誰よりも遠くへ 山県市で学生大会、5チーム競う ～岐阜大学Bチーム 藤原凜太郎さん、水野誠也さん～ |
| 2025/9/24 | 中日 | ロボット技術 はばたけ 工夫凝らした機体 飛距離競う 山県で岐大生ら5チーム ～航空宇宙生産技術開発センター～ |
| 2025/9/25 | 朝日 | 手作り「飛行ロボ」飛距離競う 山県で大会 岐阜大チーム優勝 |
| 2025/9/26 | 毎日 | 知恵と工夫で飛び上がれ!!飛行ロボ性能競う 岐阜大、名古屋大、中日本航空専門学校 ～岐阜大学Bチーム 藤原凜太郎さん～ |

岐阜大学フォーミュラレーシングチームが 「学生フォーミュラ日本大会2025」で総合6位を獲得

【概要】

岐阜大学フォーミュラレーシング（GFR）は、2025年9月にAichi Sky Expoで開催された「学生フォーミュラ日本大会2025」のICV（ガソリンエンジン）クラスにおいて、3年連続の上位入賞となる総合6位のほか、点検項目に対する指摘事項が最も少ないチームに与えられる「ベスト車検賞」、プレゼン・車体重量・製作コストにおいて優秀な成績を収めたチームに与えられる「日本自動車部品工業会長賞」などを獲得し、国内外からエントリーのあった64チームが競う中、GFRは2023年の総合3位、2024年の総合5位に続き、今年も高いレベルで安定したパフォーマンスを発揮しました。

この結果を受けて、11月6日（木）には、吉田学長への入賞報告が行われました。GFRを代表して工学部4年の宮崎 凌太さんは「近年は海外チームの参加も増えており、全体のレベルが上がっている中で好成績を維持できた。来年はもっと上位を目指し、ものづくりという岐阜のブランド向上に貢献したい」と語りました。吉田学長からは「毎年、スポンサー集めから機体製作までの全てを自ら行う学生フォーミュラにおいて好成績が続けられることは、皆さんの将来にとっても非常によい財産になると思います。現状に満足することなく、高いレベルを目指して頑張ってください」とGFRへの期待と激励の言葉が贈られました。



（左から）顧問の菊地 聡 准教授、高木 覚登さん、池上 功晟さん、宮崎さん、吉田学長



GFRのみなさん

【メディア掲載】

| 掲載日 | 新聞社名 | 内容 |
|-----------|------|--|
| 2025/11/8 | 中日 | 学生フォーミュラ入賞報告 ベスト車検賞も 岐阜大サークルが学長に ～岐阜大学フォーミュラレーシング工学部4年 宮崎凌太さん、3年 池上功晟さん～ |

学生チーム「iGEM Gifu」が iGEM 2025 Grand Jamboreeで金賞を受賞

【概要】

10月28日～31日にフランス・パリで開催された、世界最大級の学生主体による合成生物学大会「iGEM 2025 Grand Jamboree」において、50を超える国・地域から約400チームが参加する中で、本学の学生チーム「iGEM Gifu」が長浜バイオ大学と合同で結成したチームの「Japan scinet」が金賞（Gold Medal）を受賞しました。これは「Preser VEG - Preserve Vibrant Edible Goods!!」というタイトルで、食品ロス削減に向けた新たな合成生物学的アプローチを提案したことが評価されたものです。

11月18日にはiGEM Gifuを代表して応用生物科学部4年の牧村美優さんが吉田学長を訪問し、「金賞を目標にこれまでずっとやってきたので、非常に嬉しいです。従来のアプローチを見直して改善に取り組んだことが、金賞という栄えある評価をいただくことに繋がったと思います」と喜びを語りました。

吉田学長は「みなさんが日頃から志を高く持ち、切磋琢磨を怠らなかったことが、新しい発想を生み出すことに繋がったのでしょうか。今後、バイオテクノロジーの分野での活躍を目指すのであれば、この上なくよい経験になると思います」と激励と期待の言葉をかけました。

岐阜大学は、みなさんの挑戦と成長をこれからも応援していきます。



左から、臼井陸太さん、吉田学長、牧村さん、神谷權弥さん、永田大翔さん

【メディア掲載】

| 掲載日 | 新聞社名 | 内容 |
|------------|------|---|
| 2025/11/22 | 岐阜 | 合成生物学研究 家庭内の食品ロス削減へ 果物や野菜、鮮度の判定システム考案 岐阜大チーム世界大会「金」～応用生物科学部4年 牧村美優さん～ |

「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を開催

【概要】

教育学部附属小中学校の児童生徒を対象に毎年実施している「考えようSDGs！エコ活動啓発川柳・ポスターコンクール」を今年も開催しました。

このコンクールは、十六銀行と締結した「環境保全における連携に関する覚書」に基づき、SDGsについて考え、省エネや環境美化、ごみ減量など、身近な視点からエコ活動を啓発することを目的としています。

ポスター部門は今年で15回目を迎え、昨年新設した川柳部門は今回で2回目の募集となりました。厳正な審査の結果、部門ごとに最優秀賞、優秀賞、十六フィナンシャルグループ賞を1作品ずつ選出しました。

12月17日（水）、本学で受賞作品の表彰式を開催しました。表彰式では、受賞した児童生徒一人ひとりに吉田学長から表彰状が、十六銀行の國島執行役員から副賞が手渡されました。吉田学長は次のように述べました。「作品の中に込められた皆さんの思いに触れ、環境について改めて考えさせられました。SDGsへの思いをこれで終わらせず、ぜひ行動に移し、将来に活かして大きく成長してください」國島執行役員は、次の言葉を贈られました。「受賞作品はそれぞれの視点でよく考えられており、私たちでは思いつかない表現もありました。SDGsは大きなテーマですが、一人ひとりの意識と行動が地域全体の環境を守ることにつながります。ぜひ関心を行動に移していきましょう」さらに、西野附属小中学校統括校長は次のようにコメントしました。

「受賞作品から、皆さんが学校だけでなく家庭や日常の中で環境について主体的に学び、考えていることが伝わりました。子どもたちは自分で調べ、考えています。学校の学びに社会の実情を重ね、地域と連携しながら社会参画の意識を育てていきたいと思ひます」

川柳部門で最優秀賞を受賞した3年生の水崎仁琴さんは「魚も人も笑顔になるために、環境を大切にしたいと思ひ、この作品を考えました」と語りました。ポスター部門で最優秀賞を受賞した7年生の高井望乃加さんは「中学校のバレーボール部で『ブロック』という技を練習している。その技を地球の環境問題を食い止めることに重ねて、今起こっている問題を解決したいという思ひで作品を考えました」と話しました。

受賞作品はこれまで本学の図書館に展示され、地域の方も含め多くの方にご覧いただきました。今後は、十六銀行加納支店で2026年1月7日（水）～20日（火）、十六銀行岐南支店で2026年1月21日（水）～2月3日（火）の期間に展示を予定しています。

本活動が環境について考えるきっかけとなり、エコ活動が広がっていくことを期待しています。



【メディア掲載】

| 掲載日 | 新聞社名 | 内容 |
|------------|------|------------------------------|
| 2025/12/18 | 中日 | 環境保全を啓発 川柳とポスター 岐阜大附属小中生の表彰式 |

岐阜大学医学部のサークル団体が 「第77回西日本医科学生総合体育大会」で総合優勝

【概要】

岐阜大学医学部のサークル団体が、鹿児島県で開催された「第77回西日本医科学生総合体育大会」で総合優勝を果たし、2025年10月11日に行われた閉会式において表彰されました。

西日本医科学生総合体育大会は、西日本の医学生を対象に行われる歴史あるスポーツ大会で、夏期競技および冬期のスキー競技を実施しています。第77回大会には44大学が参加し、21種目の競技が行われました。本学からは、陸上部、ソフトテニス部、硬式テニス部、バドミントン部、水泳部、サッカー部、卓球部、剣道部、スキー部などが出場し、各競技において健闘した結果、見事総合優勝を果たしました。

1月20日には、医学部サークルから大会で活躍した学生9名が牛越医学部長に大会の様子について報告を行いました。

陸上競技・100mハードルで1位となった医学部3年の木曾早紀さんは、「昨年度は3位という結果で悔しさが残りましたが、その経験を糧に『今年こそは』という気持ちで日々の練習に真摯に取り組んできました。その成果を発揮し、今年度は念願の1位を獲得することができました。来年度はメンバーを集めてリレー種目にも挑戦し、個人・チームの両面でさらなる成長を目指します」と力強く語りました。

岐阜大学医学部では、学生が課外活動を通して培う挑戦心や協働する力を大切にしています。今後も学生たちのさらなる活躍を期待しています。



岐阜大学環境サークル「G-amet」を岐阜市が表彰

【概要】

岐阜大学環境サークル「G-amet」が、自然環境保全や環境教育活動に積極的に取り組み、温室効果ガス削減や環境意識活性化に大きく貢献したことが高く評価され、1月14日に岐阜市より表彰されました。

1月29日（木）には、G-ametの学生4名が学長室を訪れ、吉田学長に受賞の報告を行うとともに、日頃の活動内容や今後の抱負について説明しました。また、2月に行われるASCN（アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク）にG-ametとして参加し、日本をはじめ、アジア各国の環境グループとの交流を予定していることも報告しました。

岐阜大学は、学生による環境活動を継続して支援し、環境に配慮したサステイナブルなキャンパスづくりを推進してまいります。



「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で 本学学生が日本MITベンチャーフォーラム賞を受賞

【概要】

2月24日（火）に開催された「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会（CVG2025）」において、応用生物科学部4年・杉本稜太さん（Umami Japan株式会社 代表取締役）が「日本MITベンチャーフォーラム賞」を受賞しました。

キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）は、1999年に大阪で始まった国内で最も歴史あるベンチャー・スタートアップ系コンテストのひとつで、全国8地域（北海道、東北、東京、中部、大阪、中国、四国、九州）の地域大会を勝ち上がった学生が全国大会に出場します。"学生起業家の登竜門"としても広く知られています。

杉本さんは本学「起業部」在籍中の2023年7月に「Umami Japan株式会社」を設立しました。同社は自社柿農地を保有し、生産から販売までを一貫して行うほか、海外輸出にも積極的に取り組んでいます。岐阜県特産の富有柿「Umami KAKI」は、国内の高級スーパーやオンラインショップで販売されているほか、JAL国際線ファーストクラスで採用されるなど、グローバルな展開も進んでいます。

岐阜大学では、大学発ベンチャー支援やアントレプレナーシップ人材の育成に向けた取り組みを今後も積極的に推進し、活動状況についても情報発信を続けてまいります。



杉本稜太さん（Umami Japan株式会社 代表取締役）



Umami KAKI

【メディア掲載】

| 掲載日 | 新聞社名 | 内容 |
|-----------|------|--|
| 2026/2/25 | 日刊工業 | キャンパスベンチャーグランプリ全国大会 【MIT賞】 Umamiブランドを世界一に！ ～応用生物科学部4年 杉本稜太さん(Umami Japan社長)～ |

社会システム経営学環の学生が企画した新商品 「岐阜大仏珈琲」が発売

【概要】

3月27日、OKB岐阜大学プラザにおいて、本学学生が企画した新商品「岐阜大仏珈琲」の発表会を開催しました。本商品は、社会システム経営学環・篠田朝也研究室の学生が中心となり、地域と連携して企画した観光土産で、同日より岐阜市内各所で順次販売が開始されます。

「岐阜大仏珈琲」は、岐阜市の正法寺に安置され、日本三大仏の一つにも数えられる「岐阜大仏」をモチーフにしたドリップバッグコーヒーです。岐阜の重要な文化財の魅力を、より多くの人に知ってもらいたいという学生たちの思いから誕生しました。

本プロジェクトは、岐阜大学の学生に加え、岐阜を代表するイラストレーターの石田意志雄いしお氏、就労継続支援B型事業所「アンドワークス」（運営：ウィンキャリア株式会社）、そして正法寺との協働によって進められました。大学・地域・福祉が連携することで、文化財の魅力発信と障がい者の就労機会創出を同時に目指す、挑戦的な取り組みです。

商品パッケージには、岐阜大仏を親しみやすく表現したイラストが描かれ、味の違いごとに異なるネーミングが付けられています。セットには5種類の珈琲が用意され、それぞれが個性豊かな味わいを楽しめます。さらに、珈琲セットにランダムで同封される「豆知識カード」には、岐阜大仏にまつわる豆知識やエピソードが分かりやすく紹介されており、珈琲を味わいながら、岐阜大仏の歴史や文化的価値に触れることができます。

売り上げの一部は、岐阜大仏の保全活動にも活用される予定で、商品を購入することが地域文化の継承につながる仕組みとなっています。

発表会では、企画に携わった学生たちが、商品開発を通じて得た学びや、地域資源の魅力をどのように伝えるかを考え続けたプロセスについて紹介しました。関係者との繋がりや信頼関係の大切さなど、実践的な学びが詰まったプロジェクトであったことが語られました。



「岐阜大仏珈琲」
岐阜駅内のTHE GIFTS SHOPや
岐阜城楽市の起き上がり本舗で販売



「岐阜大仏珈琲」を企画した
社会システム経営学環学生